



2025年

6月第1・2・3週の主日礼拝説教要約

・ 6月 1日 使徒言行録 1 : 3 - 11 .

『 約束を待て 』

・ 6月 8日 使徒言行録 2 : 1 - 6 .

『 降 臨 』

・ 6月15日 マタイ福音書 28 : 16 - 20 .

『 造り主、独り子、弁護者 』

衣笠病院教会 牧師 宮原晃一郎

《 約束を待て～降臨 》

死と復活から四十日が過ぎた頃、イエスは弟子たちの前に顕れて、「エルサレムから離れず、私から聞いた、父の約束されたものを待ちなさい」という指示を出しました。そのあと、今度は弟子たちの中からイエスに問いかける者がいます、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と。指示通りにエルサレムで待機すれば、弟子たちが待ちに待った“この時”がおとずれるかもしれません。イエスが王に据えられその下で、いよいよ彼らの活躍の時代が始まろうとしているのでしょうか、復活のイエスこそが「ユダヤの王」に相応しい、という思いが弟子たちの中にくすぶっていたのです。

しかし、イエスは答えます。

父（なる神）が、ご自分の權威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。ただ、あなたがたの上に聖霊が降ると、あなた方は力を受ける。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤ全土、さらに地の果てまで、私の証人となる。（使徒言行録 1:7-8）

ここに、弟子たちが寄せていた、近未来へのささやかな期待は打ち砕かれてしまいます。

必要なことを語り終えたイエスはそのまま、「彼らの見ている前で天に上げられ、雲に覆われて、見えなくなった（同 1:9）」のでした。弟子たちは、力あるイエスの業と存在を、ことあるごとに衝撃をもって受けとめてきました。けれども、神様の「お定めになった時や時期」、はたまた御計画そのものを、弟子たちは知ることを許されません。その時、彼らはただ、地上を後にした主を目で追って、「天を見つめて（同 1:10）」いる以外になす術がなかったのです。「私（イエス・キリスト）の証人（同 1:8）」となるとは、どういう意味なのか。彼らには理解ができません。何をどう証したらよいのか、さっぱりわかりません。「あなたがたの知るところではない」のなら、もう諦めるしかないのでしょうか。

これが克服される時が来るのだとすれば、その時こそ「聖霊が降り、あ

なたがたが力を受ける」時なのかもしれません。彼らにはただ“待つ”ことだけが求められていたのです。

さて、五旬祭の日が来て、

皆が同じ場所に集まっていると、突然、激しい風が吹いてくるような音が天から起こり、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他国の言葉で話し出した……エルサレムには天下のあらゆる国出身の信仰のあつい人々が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、誰もが、自分の故郷の言葉が（現場で）話されているのを聞いて、あっけにとられた……「見る、話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか、（なのに）どうして（後から集合した）それぞれが生まれ故郷の言葉を（ガリラヤの人たちから）聞くのだろうか……人々は皆、驚き、戸惑い、「一体、これはどういうことなのか」と互いに言った。

（使徒言行録2：1…12）

こうして、説明のつかない事態が発生します。「一体、これはどういうことなのか」…。弟子たちが“待たされた約束”がまさに、“これ”だったのです。

さて、「聖霊に満たされ、霊が語らせるままに」この超常現象の説明を始めたのは、他ならぬペトロです。

（お集まりの）ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります……（多言語で語る）この人たちは……（朝から）酒に酔って（語って）いるのではありません。そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。

「神は言われる。終わりの日に、私は、すべての肉なる者にわが霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。その日、男女の奴隷にもわが霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。

上では、天に不思議な業を、下では、地にしるしを示す。血と火と立ち上る煙が、それだ。主の大いなる輝かしい日が来る前に太陽は闇に、月は血に変わる。しかし、主の名を呼び求める者は皆、救われる。」

(使徒言行録2：14b…21)

ペトロは、聖霊の力を得てこの時から別人へと生まれ変わったのです。

《造り主(父)、独り子(子)、弁護者(聖霊)》

使徒言行録2章で、聖霊降臨の出来事をペトロが説明できたのは、“弁護者”としての聖霊の働きによるものでした。

さて、マタイ福音書の最終章の終わりに昇天前のイエスが弟子たちに、こう命じています。

私(独り子)は天と地の一切の権能を(父なる神=造り主から)授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。(マタイ福音書28：18b-20)

今、この場に教会が立っているのも、この“命令”の答えです。さて、イエスはこの時に三つのことを、彼らに命じています。①全ての民を弟子にすること、②彼らに、父と子と聖霊の名による洗礼を授けること、③弟子たちに命じたことを全て守らせること。③に関しては説明が必要です。イエスが命じた全てのことを精査するためには、それなりの神学論争を要します。ただ、イエスが最初に弟子たちに命じたことで、イエスご自身も、初めから終わりまで尽力されたことは、「神の国を宣べ伝え、病人を癒す(ルカ福音書9：2)」ことでした。4つの福音書は紙面が許す限り、克明にその事実を報告しています。

衣笠病院教会は、衣笠病院と共にイエス・キリストが命じたことの、その一翼を担い、今でも忠実に果たしています。